

# 読者ひろば

## 軍都司令部を 熊本城に見る

高谷和生 60

市民グループ事務局長(玉名市)

9月より熊日で「平和を歩く県内戦争遺産」の掲載が始まった。「時を超え、歴史の証人は何を語るのか」。県内の戦争遺産をルポし、戦禍の記憶をたどる戦後70年に向けての新たな企画である。

10月4日付の「熊本城に軍都の司令部」の記事では、明治の鎮西鎮台以降、軍都の司令部としての熊本城の果たしてきた役割を浮き彫りにし、記憶が薄らぐ現状を危惧する紙面となった。確かに城内の大多数の建物は消滅し、わずかな痕跡が残るのみではある。しかし、大江地区と同様に標示などを工夫すれば、近代熊本城の姿を現すことは可能である。

城内4カ所に残された「陸軍所轄地」標石柱への案内板設置、高橋公園内の師団長官舎門柱の説明や移転先である延寿寺の調査、また主要な建物の当時写真掲示を加えれば、市民や観光客に熊本城の歴史の深さを感じてもらいたいことも可能となる。文化庁が指摘した「調査研究の必要性」は決して、近世の熊本城だけでなく、明治以降の熊本城の文化財としての価値も含まれると考える。

### 投稿される方へ

「読者ひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係  
②ファクス 096(363)1268  
③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp